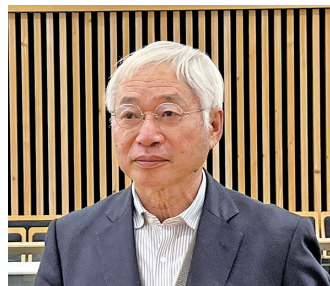


残土活用の宅地造成状況は

費用面最良を考慮し進める

みやがわ のりみつ 議員
宮川 徳光

問 本庁舎東側にて、高規格道路延伸に伴う残土を活用した入野地区宅地造成事業の取り組み状況は。

また、これ以外の高台における宅地造成や、宅地確保に向けた計画の状況は。

答 徳廣 まちづくり課長

本事業は、令和3年度に基本計画、同4年度に基本設計業務を実施している。この基本設計実施後、中村河川国道事務所と協議する中、本町が宅地造成と

した事業主体で進めるのは、本町に相当の費用が発生し、大きな財政負担となることが課題となった。

その後、町の財政負担軽減について協議する中で、高規格道路の残土処理事業としての位置付けでの実施が、費用面において本町としては最良と考え、その方向で協議調整を進めて来ている。

本事業は、地元及び関係者の皆さまの理解、協力が必要な事業で、今後も同事務所と綿密な協議を行い、地元及び関係者への説明会等を実施し、事業の実現に向けて進めていく。

また、これ以外の高台の宅地造成等は、現状の補助スキームでは財政面の課題が大きいいため、計画はない。

既存の高台や浸水区域外にある宅地の確保については、今年度、同目的で工事を実施した出口地区の状況を見ながら、本町の町のあり方等、全体的、相対的に考え、他の地区の住民のニーズ等を把握しながら、道路整備による宅地化の可能性のある用地の抽出、協議をしていく。



残土活用の事業計画が進む本庁舎（左側）東側の井ノ谷地区（中央部）（令和7年12月）

環境改善

取組む姿勢や
考え方はまずは活動中の
方々の考えを

問 地球規模で種々の環境の悪化が叫ばれている。

この状況下、各家庭や行政が対応できるのではと思われる環境改善に向けた取り組みについて問う。行政として、取り組む姿勢や考え方は

答 大西町長

今、具体的なものは持ち合わせていないが、住民の活動を支えるにも、また、連携するにも種々のやり方があると考えられる。

活動には、いろいろなご苦労もあるうかと思われるし、広げようとする努力の中で突き当たる障害とかを官民連携でクリアできるところがあれば、積極的に取り組みを進めていくべきだと考える。今、活動を継続していた



店頭に並ぶ「くろしお元気AI」
（くろしおふれあい市・入野早咲）

だいている団体の皆さまの考えを、まずは自分たちが熟知することが大切ではないかと思う。このため、EM関連、あるいはくろしお元気AI（あい）関連で活動中の皆さまと話をさせて頂きたいと考えており、スケジュールを早急に組みたいと思っている。